兵庫県立篠山鳳鳴高等学校79回生　学年通信

「喜べば」

2026･10･13　第40号

学年主任　　森本　聡一郎

今年のテーマ：３年間の「自分磨きの旅」を感動に満ちたものにしよう
最上級生としての自覚ある行動と進路実現への挑戦
今月のテーマ：「収穫の秋」とするため生活習慣の見直しを。勝負はまだ先にある！

1.「まだ何も終わってはいない」　体育祭は終わったけれど…

体育祭も終了し、これで大きな学校行事としては全て終わりです。これで鳳鳴高校に来る理由は限りなく低減してしまうことになるのでしょうか。答えはきっぱり「否」です。（そのような心配は無用）キミ達はこれからもみんなで何かをしようとし続けるでしょうし、みんなで楽しい事や、みんなで苦しいことを共有していくことでしょう。　みんなで目指していくゴールが意識できるぐらい近くなってきて、こんな時にこそ集団の組織力が見えてきます。さあ、気持ちを合わせて次です、次！

私が子供の時から学校には大きな運動場がありました。砂場がありました。鉄棒もありました。体育館もプールもありました。ピアノやオルガンもありました。キミ達から見れば失笑しそうなほどお粗末な用具や設備でしたが、当時の家庭には絶対にないものが学校にはいっぱいありました。だから、学校に行けばいろんなことができました。我々の子どもの時代は、学校というのは魅力に満ちた場所だったのです。

翻って考えてみると、現在では冷暖房はもとより、学校よりも家庭の方が設備が充実していることさえあり、少なくとも快適さにおいては学校を凌駕している感があります。そのような時代にあっても、生徒を引き付ける学校の魅力とは何なのだろうと考えることがあります。

しかし、生徒たちからその答えを教えてもらうことが多くあります。「学校では、集団で何かをするという共有体験が命であり、空間や時間の共有を通して互いの価値観をぶつけ合い、高め合うことができる」ということです。

たとえ、机に向かって黙々と勉強していても、それは身近に同じように頑張っている仲間がいるからできるのです。しんどい練習も、周囲と支え合えば乗り越えられます。そして、何かを乗り越えたときに大きな感動と充実を手にすることができるのです。そのように考えれば、やはり学校に来る意味は、今なお大きいと言えるでしょう。

学校には毎日を仲間と一緒に過ごせる魅力が満ちているのです。そして、キミ達の場合はそのような機会がまだ６１日（要出席日数）も与えられているのです。楽しもうと思えば、いくらでもそのような機会はあるのです。要は、学校を楽しい場所にできるかどうかは、キミ達の心の中で決まるのです。心の中のベクトルをどちらに向けるか次第なのです。



2.「中間考査時間割」

	１０月１５日 （木）	１０月１６日 （金）	１０月１９日 （月）	１０月２０日 （火）
１限 （9:00～50）	英コミュⅢ	日史探/世史探 物理/生物	政経/化基/地探	論理国語
２限 （10:05～55）	応日本史研 応世界史研 数学実践/数Ｃ	古典探究	（文）生物基礎 （理）数学Ⅲ 英研	論理表現Ⅲ
３限 （11:10～ 12:00）	応用数学	文学国語	政経/倫理	日研/世研 実英/化学

※注意
①考査の開始は9:００ですが、SHR は通常通り8:35 です。休憩時間は 15 分。
②テスト終了後、ワークやノート提出あり。期限順守せよ。

3.「今後の日程」

１０月１５日（木）　中間考査　～２０日まで
　　１７日（土）　丹有高校駅伝（３年生が３人出場します）
　　２１日（水）　ワラワラ市交換留学生来校
　　２３日（金）　全統模試（放課後）　**一三夜**
　　２４日（土）　全統模試
　　２６日（月）　キャンパスカウンセリング
　　２８日（水）　マーク模試（放課後）
　　３０日（金）　マーク模試（放課後）
　　３１日（土）　マーク模試
１１月　１日（日）　兵庫県高校駅伝
　　３日（火）　文化の日
　　９日（月）　キャンパスカウンセリング
　　１４日（土）　１５０周年記念式典（田園交響ホール）
　　１６日（月）　代休（11/14）
　　１８日（水）　芸術鑑賞会（午後）
　　１９日（木）　全統プレ（～２１日まで）



4.「勝負は今！　強くなるのも今」

2026 年度の 18 歳人口は 109 万人。８年前の2018 年度より６万人の減少です。2030 年度はさらに９万人減少します。少子化もここまで来たか！という印象を受けます。気になる大学共通テスト志願者数も減少傾向が続いており、キミ達の年代は約 50 万人です。しかし、勝負が倍率でないことは、高校３年生にもなれば分かっていますよね。先に挙げた数字が、キミ達にとっては気休めでも何でもないのです。むしろ「キミ達は競争率が低いから楽なのだ」などと言われたら、応援どころかプレッシャーにしかならないのではないでしょうか。

毎日の受験勉強はどうですか。根気が続かず、苦しくなって逃げてはいませんか。思うように結果が出ず、イライラしていませんか。でもそれが普通なのです。この時期の勉強とは「受験勉強」だけではないのです。ここを通過して初めて「毎日仕事をする」ことの意味を知り、一人前の入り口にたどり着くのです。

今、この時期に「順調です」と言い切れる人はいないでしょう。いたら、その人はよほどの天才か、又は、努力とは無関係で確実に入れるところしか狙っていないだけのことです。大半の人にとって、この時期は苦しいのです。「勝負の舞台を降りたらどれほど楽だろうか」と考えるのです。あくせく勉強するのが馬鹿みたいに思え、こんなことに一体何の意味があるのかと自問することもあるのです。ましてや、結果の出ない時期はその感が一層強くなるものです。

勝負を投げ出してしまうなら、一時的には楽になれるでしょう。しかし、そのことで後が苦しくなることは十分予想できるはずです。単に、希望の進路に進めなくなるからではありません。この時期の発達課題に立ち向かおうとしなかった「甘さ」や「弱さ」は、大きな負債となって、これから先の自分に、かなりの期間に渡ってついて回ることになるからです。人生の節目節目でやり遂げなければいけない「お約束」を後回しにすれば、そのツケは早晩必ず回ってきます。

一人の人間として、「肉体や精神の骨格」が定まろうとしているこの時期をどう過ごすかは、はるかに長いキミ達の人生そのものの豊かさを決定づけてしまうのです。この時期に自分を律して将来に備える努力をしていれば、物理的な豊かさは保障されないまでも、少なくとも精神的に豊かな生活とはどのようにして得られるものなのかが分かるようになるでしょう。



檄！

何も自分だけが苦しいのではない。全国で６０万人もの大学受験生が勝負の舞台に上がっており、その一人ひとりにそれぞれの思いがあるのだ。弱気になって勝負を迷っている者もいれば、ひたすら強気に攻め続けている者もいるだろう。そのようなことを繰り返しながら、多くの者が前進を続ける日々である。そして、その悩みや迷いは６０万人を超える受験生のそれぞれに存在するのだ。所詮キミの迷いはその一つに過ぎない。あれこれ考え、苦悩している間にも地球は無常に太陽の周りを進んでいく。炎暑の夏は遠くに去り、いよいよ厳しい冬が目前に迫ってくる。残された時間の少なさがはっきりと意識できる時期となった。だが、キミ達が強く豊かになっていくのもこの時期だ。この世に無駄な勉強など何一つない。ましてや、自分と真剣に向き合い、我慢や辛抱を重ねた時期には素晴らしい値打ちがある。